

小学校第2学年 道徳 主題名「すなおなきもちで」

資料名「ぼくのこと」(出典 くすのき)

1 本主題で人権教育を進めるにあたって

本主題は、「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。1-(4)」を内容としている。児童が積極的で健康的な自己像を描くためには、自己の過ちを認め、改めていく素直さをもつとともに、誠実さを持ち、明るく楽しい生活をしようとする姿勢をもつことが大切である。

資料では、主人公「ぼく」がしたことを「もやもやする」という言葉で表現している。その気持ちを「ぼく」の立場で考えることで、共感的に受容させ、友達からの言葉を聞いた後の「ぼく」の気持ちを考えることで、自己の過ちを素直に認め、改めていくことの大切さに気付かせていきたい。

このような誠実な生き方を大切にする心を育てることは、人権教育を通じて育てたい資質・能力の「人権の視点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度」(価値的・態度的側面)を育て、自分の生活の事実に向き、自分のしたことを振り返り、よりよい行動に改めようとする態度につながると考える。

その際、学級において「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」(技能的側面)を育成することも日常的に指導していきたい。

2 題材の目標

いけないことをしてしまったときには、素直にその過ちを認め、改めようとする心情を高める。

3 人権教育を通じて育てたい資質・能力

自分のしたことを振り返り、よりよい行動に改めようとする。

(価値的・態度的側面)

相手の立場に立ち、他者の痛みや気持ちに共感することができる。

(技能的側面)

4 指導のポイント

(1) 人権感覚を育てる上で大切にしたいポイント

- 特別活動や日常的な行動の様子を記録しておき、児童がよりよい行動をした時のことを紹介し、その時の気持ちをクラスの中で話す機会を設定する。
- 自分のしたことを振り返り、共感的に受容してくれる仲間の言葉で、自分の過ちを素直に認め、改めていく心地よさに気付かせる。
- 特別活動や日常的な指導と関連させ、学習後、児童がよりよい行動に改めようとしている場面を帰りの会等で日常的に紹介することで、積極的な行動の実践化につなげる。

(2) 人権が尊重される授業づくりの視点

① 自己存在感

- ・児童の生活の実態を把握し、意図的指名により、個の思いや考えを活かす。
- ・自分の考えを表現する機会を多く持たせるために、ペアの活動を取り入れる。

② 共感的人間関係

ペアや全体での発表の際は相手の方を見て聴き、共感的なうなずきや言葉かけをしたり質問したりすることで、支持的な雰囲気をつくっていく。

③ 自己選択・決定

- ・主人公に対して、自分だったらどうするのか、自分の考えを表現させる。
- ・行動の実践化につなげるため、学習したことをもとに、これからの自分の態度について考えさせていく。

5 学習の流れ

(1) 指導計画

学習内容	人権尊重の視点を踏まえた指導上の留意点等
1 事前（日常） 自分のしたことや思ったことを話したり、友達の思いや考えをしっかりと聞いたりする。	○友達の思いをしっかりと聞く態度を身に付けさせ、自分の思いを伝える経験をさせる。
2 本時（道徳） 帰りの会で話している「ぼく」の気持ちを考える。	○自分の経験と重ねながら、「ぼく」の気持ちを考えさせ、過ちを素直に認め、改めていくことの大切さに気付かせる。
3 事後（日常） 自分のしたことを振り返り、素直に行動を改めようとする。	○児童の生活場面から、自分を振り返り、素直に過ちを認め、行動できている場面を紹介し、価値の実践化につなげる。

(2) 人権尊重の意識と実践力を養う学習活動例

目標

◇いけないことをしてしまったときには、素直にその過ちを認め、改めようとする心情を高める。

人権教育で育てたい資質・能力

◆自分のしたことを振り返り、よりよい行動に改めようとする。

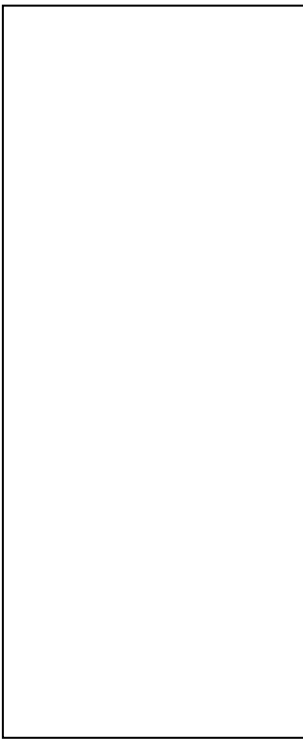
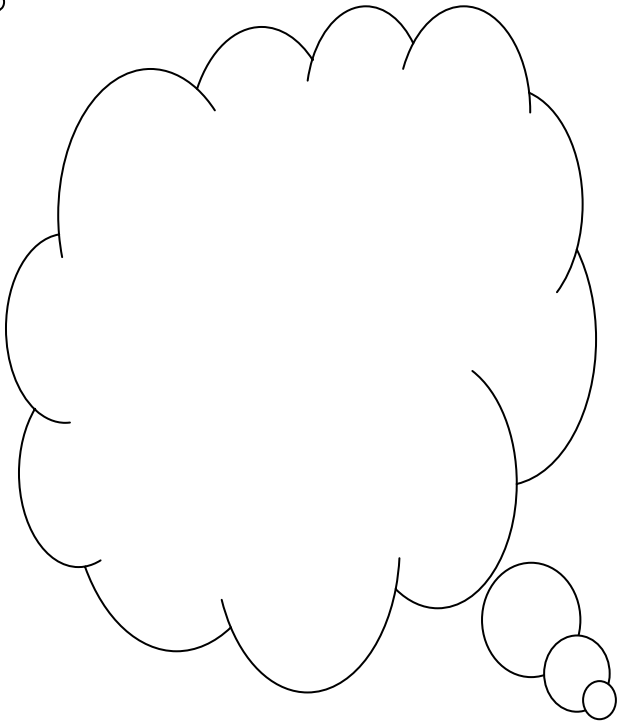
主な学習活動	○指導上の工夫・留意点 評価◇◆	備考
1 主題に関連したこれまでの経験を思い出す。	○「いけないことをしてしまった」と思った経験を出し合わせ、価値の動機付けを図る。	
2 資料のお話を聞く。	○資料は、帰りの会で出された発言の設定で提示する。	
3 帰りの会で話しているぼくの気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ぼくの気持ちをかんがえよう。</div> ① 1年生の女の子に悪口を言って足をけった時のぼくの気持ち ② ところがもやもやするぼくの気持ち	○場面絵で、ぼくの行動を簡単に確認する。 ○いらいらしている「ぼく」の気持ちや、女の子のつらい気持ちを押さえる。 ○「どうしよう」と思っている「ぼく」の気持ちを考えさせる。	場面絵
4 帰りの会で話してくれた「ぼく」に「友達」として、自分の思いを言葉で伝える。(役割演技) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくもイライラすることがあるよ。でも、けったらいけないよ。 ・あやまったほうがいいよ。 ・女の子はずっといやな気持ちだよ。 </div> 5 友達の言葉を聞いた後の「ぼく」の気持ちを考える。(役割演技) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり女の子にあやまろう。 ・こんどからイライラしてもけらないようにしよう。 ・みんなにしょうじきにはなしてよかった。 </div>	○「ぼく」と「友達」によるペア活動をさせ、「友達」としての自分の思いを表現させる。 ○相手の方を見て聴き、共感的なうなずきや言葉かけをすることで、支持的な雰囲気をつくる。 ○深まりの見える活動をしているペアを意図的に指名する。 ○「友達」の言葉を聞いた後の「ぼく」の気持ちを学習シートに書かせる。 ◇いけないことをしてしまったときには、素直にその過ちを認め、あらためようとする気持ちを書いている	学習シート
6 日常生活を振り返り、学習をまとめる。	○「ぼく」と同じような経験を出し合わせる。 ◆自分のしたことを振り返り、よりよい行動に改めようとしている。(学習シート・発表) ○事前に生活の様子を把握し、自分の過ちを素直に改めていた児童の姿を紹介し、今後の実践につなげる。	学習シート

(学習シート例)

ぼくのこと 名まえ ()

ともだちにはなしたあとの「ぼく」の気持ち

じぶんのことをかんがえてみよう



(板書例)

ぼくのこと

一年生をけったときの気持ち

- ・ いらいらした
- ・ 一年生ならなにもいわない。



もやもやする「ぼく」の気持ち

- ・ おかあさんにいうかもしれないなあ。
- ・ 一年生にわるいことした。
- ・ あやまろうかな。



ともだちにはなしたあとの「ぼく」の気持ち

- ・ やっぱりあやまろう。
- ・ こんどからけらないようにしよう。
- ・ みんなにしようじきにはなしてよかった



じぶんのこと

- ・ ぼくもそんなことがあって、あやまったらすっきりした。

- ・ わたしもじぶんの気持ちをいってあやまったら、そのあと、なかよくあそべた。
- ・ ぼくも、いけないことをしているからやめよう。

- ・ ぼくもイライラすることがあるよ。でもけったらいかんよ。
- ・ あやまったほうがいいよ。
- ・ 女の子はずっといやな気持ちだよ

みんなからのことば